

# 聖書解釈の逸脱と回復

2018年 聖書フォーラムキャンプ（御殿場）

---

基調メッセージ



中川健一

ハバース・タイム・ミニストリーズ

## 目次

<b>Part I. 世界観と聖書</b> .....	<b>1</b>
はじめに .....	1
1. 聖書フォーラム運動の広がり .....	1
<b>I. 聖書の神を否定する世界観</b> .....	<b>3</b>
1. 科学と宗教の間には不調和があると考え.....	3
2. 社会進化論が受け入れられている.....	3
<b>II. 聖書の神を認める世界観</b> .....	<b>4</b>
1. Fundamentalism (根本主義) .....	4
2. 聖書の神を認める世界観の特徴.....	4
<b>III. 神学 (theology) の目的</b> .....	<b>5</b>
1. 神学 (theos + logos) とは、神に関する学びであり、論考である .....	5
2. 聖書は、神の栄光を啓示するために書かれている .....	5
<b>IV. 契約神学</b> .....	<b>7</b>
1. キリスト論的贖いの教理を聖書の中心に置く神学体系である .....	7
2. 契約神学は、「罪」と「救い」を神学の中心に置く .....	7
<b>Part II. 正典と聖書解釈学の歴史</b> .....	<b>9</b>
はじめに .....	9
<b>I. 正典の成立</b> .....	<b>10</b>
1. 旧約聖書の 39 巻と新約聖書の 27 巻が正典である .....	10
2. 正典がいつか完了するという考え方が聖書にある .....	10
3. キリストによる旧約聖書の認定.....	10
4. キリストによる新約聖書の認定.....	11
5. 新約聖書の正典は、397 年のカルタゴ教会会議で、西方教会において承認された.....	12
<b>II. 解釈学の歴史</b> .....	<b>13</b>
1. 誤った解釈学の源流は、エデンの園におけるサタンの欺きである .....	13
2. 旧約時代、神のこぼれを受け取った者たちは、それを字義通りに解釈した .....	13
3. 中間時代.....	14
4. 教会時代.....	14
<b>まとめ</b> .....	<b>16</b>
1. 教会の第一世代は、啓示の内容を字義通りに解釈した .....	16
2. それ以降、字義通りの解釈を施す程度はさまざまに変化してきた .....	16

<b>Part III. 字義通りの解釈がもたらす祝福</b> .....	<b>19</b>
はじめに .....	19
<b>I. 字義通りの解釈は、聖書の権威への服従をもたらす</b> .....	<b>20</b>
1. 聖書解釈の基本 .....	20
2. 解釈者は、一貫して聖書の意味を汲み取るにより、聖書の権威に服する .....	20
<b>II. 字義通りの解釈は、漸進的啓示 (cumulative revelation) の重要性を認識させる</b> .....	<b>21</b>
1. 漸進的啓示は、ディスペンセーションリストとそうでない者の分岐点となる .....	21
2. ディスペンセーションリストの解釈法.....	21
3. 非ディスペンセーションリストとプログレッシブ・ディスペンセーションリスト.....	21
4. 聖書神学は、各書を啓示が与えられた順番に研究する学問である .....	21
<b>III. 字義通りの解釈は、神の栄光が聖書の中心テーマであることを認識させる</b> .....	<b>23</b>
1. 神は、ご自身の栄光のために世界を創造された .....	23
2. 人間にとって最も重要な使命は、神の栄光を称えることである .....	23
3. 神の栄光を神学のゴールと認識する利点.....	23
<b>IV. 字義通りの解釈は、ディスペンセーションリズムの生みの親である</b> .....	<b>25</b>
1. ディスペンセーションリズムの神学体系が先ずありき、ではない.....	25
2. 契約神学 / 改革派神学 .....	25
3. ウルトラ (ハイパー) ・ディスペンセーションリズム .....	26
4. プロGRESSIVE・ディスペンセーションリズム (PD) .....	27
5. 通常のディスペンセーションリズムの時代区分 .....	27
<b>V. 字義通りの解釈は、イスラエルと教会の明確な区別を要求する</b> .....	<b>30</b>
1. 置換神学.....	30
2. 置換神学は、比喩的解釈によってもたらされた .....	30
3. 旧約聖書からの考察 .....	30
4. 字義通りの解釈は、イスラエルと教会の区別を保持する.....	31
5. 教会の使命.....	31

## Part I. 世界観と聖書

### はじめに

#### 1. 聖書フォーラム運動の広がり

(1) 聖書フォーラム運動

- ①聖書研究運動
- ②万人祭司運動
- ③家の教会運動
- ④弟子訓練運動

(2) 「聖書のみ」の原則

- ①聖書は、解釈されて初めて権威を発揮する。

(3) ポストモダン（20世紀後半～21世紀）

- ①これは、物事の「解釈法」を指す用語である。

(4) ポストモダンの聖書解釈とは。

- ①字義通りの解釈に反対する。
- ②普遍的権威や絶対的真理の存在を否定する。
- ③現実や価値は相対的なもので、理性ではなく、経験の上に成り立っている。
- ④意味は相対的なもので、解釈者のサブカルチャーによって再構築される。

(5) 福音的聖書解釈とは。

- ①聖書は、一人の理性（人格）の作品である。

- ②神は、約 40 人の人間の著者をお用いになったが、究極の著者は神である。
  - ③それゆえ、正しい聖書解釈が、体系的で調和ある組織神学を生み出す。
  - ④正しい聖書解釈とは、字義通りの解釈である。
  - ⑤字義通りの解釈の結果生まれてくるのが、ディスペンセーションナリズムである。
- (6) 教会史の中で、聖書解釈がどのように進展してきたかを学ぶ。

## I. 聖書の神を否定する世界観

### 1. 科学と宗教の間には不調和があると考える

- (1) 啓示よりも理性が上位に来る。
  - ①超自然の否定
  - ②物質の優位性を認める。
  - ③創造主の特性を被造世界に帰す。
  
- (2) 死は罪の前からあった。
  - ①死は罪の結果ではない。

### 2. 社会進化論が受け入れられている

- (1) 人類は、神のようになる過程にある。
  - ①これは、新しいバベルの塔（創 11 章）現象である。
  
- (2) 社会進化論を受け入れることは、聖書の神の存在を否定することである。

## II. 聖書の神を認める世界観

### 1. Fundamentalism (根本主義)

- (1) 無神論者は、根本主義は狭い考え方だと批判する。
- (2) 根本主義の本来の意味  
(the General Assembly of the Presbyterian Church of the USA in 1910)
  - ①キリストの奇跡
  - ②キリストの処女降誕
  - ③キリストの身代わりの贖罪
  - ④キリストの肉体的復活
  - ⑤聖書の靈感

### 2. 聖書の神を認める世界観の特徴

- (1) 神はおられる (創 1 : 1)。

Gen1:1 初めに、神が天と地を創造した。

- (2) 神は権威をもってご自身を啓示された (2 テモ 3 : 16)。

2Ti3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

- (3) そのお方への畏怖の念が、神学的営みの前提である (箴 1 : 7、2 テモ 2 : 15)。

Pro1:7 【主】を恐れることは知識の初めである。／愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。

- ①神のことばに対する謙遜と従順
- ②字義通りの解釈
- ③私的解釈を優先させるのではなく、神に語っていただく。

2Ti2:15 あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。

### Ⅲ. 神学 (theology) の目的

#### 1. 神学 (theos + logos) とは、神に関する学びであり、論考である

##### (1) 神学の諸分野

- ① 聖書神学は、各書の中にある神学的テーマをその書の情報だけで論じる。
- ② 組織神学は、聖書神学によって得られた情報を組織化して論じる。
- ③ 歴史神学は、神学的教理の発展に関して論じる。
- ④ 自然神学は、自然界を通じた啓示だけで神を論じる。
- ⑤ 実践神学は、神学的教理の具体的適用を論じる。

(2) 聖書に基づく組織神学は、広義の意味での聖書神学である。

#### 2. 聖書は、神の栄光を啓示するために書かれている

(1) 神学のゴールは、神の栄光を理解し、それを示すことである。

(2) 神は、比類なき栄光をお持ちである。

(3) 神は、ご自身の栄光を表わすために、創造の業を行われた。

\* 黙示録 4 : 11

Rev4:11 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

① 被造世界は、神の栄光で満ちている

\* 民数記 14 : 21

Num14:21 しかしながら、わたしが生きており、【主】の栄光が全地に満ちている以上、

② 被造世界の存在目的は、神の栄光を表わすためである。

\* 詩篇 29 : 1 ~ 2

Psa29:1 力ある者の子らよ。【主】に帰せよ。／栄光と力とを【主】に帰せよ。



2 御名の栄光を、【主】に帰せよ。／聖なる飾り物を着けて【主】にひれ伏せ。

\*詩篇 86 : 9 ~ 10

Psa86:9 主よ。あなたが造られたすべての国々は／あなたの御前に来て、伏し拝み、／あなたの御名をあがめましょう。

10 まことに、あなたは大いなる方、／奇しいわざを行われる方です。／あなただけが神です。

\*ローマ 11 : 36

Rom11:36 というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

\*黙示録 15 : 3 ~ 4

Rev15:3 彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌って言った。／「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者である神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。

4 主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか。ただあなただけが、聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」

(4) 聖書に記された神の御業は、すべて神の栄光を表わすためのものである。

- ①神の選びと召命
- ②キリストの御業（死、埋葬、復活）
- ③救い
- ④教会
- ⑤イスラエルの民族的救い
- ⑥契約の成就

## IV. 契約神学

### 1. キリスト論的贖いの教理を聖書の中心に置く神学体系である

- (1) ヨハネ 5 : 39 を土台とする。

Joh5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。

- ①この聖書理解が推進力となって発展したのが、契約神学である。

### 2. 契約神学は、「罪」と「救い」を神学の中心に置く

- (1) つまり、贖い主キリストが全面に出てくる。
- ①しかし、キリストは三位一体の神の一つの位格に過ぎない。
  - ②また、贖いは神の御業の一つに過ぎない。
  - ③罪は被造世界での例外であって、原初的なものでも、不可欠なものでもない。
- (2) キリスト論的贖いのテーマは、神の栄光を表わす一つの方法である。
- ①契約神学以外の選択肢について考えてみよう。

MEMO

## Part II. 正典と聖書解釈学の歴史

### はじめに

#### (1) 啓示と靈感

- ①啓示は、神が伝えるメッセージの内容である。
- ②靈感は、啓示を与える方法である。  
\* 神の息が吹き込まれたという意味である。
- ③啓示の最終的な形は、聖書である。
- ④啓示を与える方は、聖霊である。

#### (2) 靈感に関する諸説

- ①自由主義神学は、聖書は神のことばを含むと主張する。
- ②新正統主義は、聖書は神のことばになると主張する（カール・バルト）。
- ③口述説は、神は啓示を口述され、記者たちはそれをそのまま記録したと言う。
- ④部分的靈感説は、教理の部分の靈感は認めるが、その他の部分は認めない。
- ⑤著者靈感説は、著者が靈感を受けて記録したと主張する。
- ⑥聖書的靈感説（2 テモ 3：16）

2Ti3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

- \* 聖書のことばには、神の息が吹き込まれている。
- \* 「inerrant」（誤りはない。無<sup>むびゅうせい</sup>謬性）
- \* 「infallible」（誤りを犯すことは不可能。無誤性）

## I. 正典の成立

### 1. 旧約聖書の 39 巻と新約聖書の 27 巻が正典である

- (1) 聖書の各書の権威を、教会（信者の群れ）が認定したということ
- (2) 教会が権威を付与したのではなく、神がそれをされた。

### 2. 正典がいつか完了するという考え方が聖書にある

- (1) 申命記 4：2

Deu4:2 私があなたがたに命じることばに、つけ加えてはならない。また、減らしてはならない。私があなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令を、守らなければならない。

- (2) 黙示録 22：18～19

Rev22:18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。  
19 また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

### 3. キリストによる旧約聖書の認定

- (1) 24 の書は、「タナハ」(TaNaKh) と呼ばれる。
- (2) ユダヤ人による区分
  - ① トーラー
    - \* 創世記、出エジプト、レビ記、民数記、申命記
  - ② ネビイーム
    - \* 前期預言者（ヨシュア記、士師記、サムエル記、列王記）
    - \* 後期預言者（イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、12 の小預言書）

## ③ケトウビーム

\*エメット：詩篇、箴言、ヨブ記

\*メギロット（5つの巻物）：雅歌、ルツ記、哀歌、伝道者の書、エステル記

\*分類しない書：ダニエル書、エズラ記・ネヘミヤ記、歴代誌

(3) イエス時代には、創世記～歴代誌という基本構成は認識されていた（ルカ 11：50～51）。

Luk11:50 それは、世界の基が据えられたときから流されてきた、すべての預言者の血の責任を、この時代が問われるためである。

51 アベルの血から、祭壇と神の家の間で殺されたザカリヤの血に至るまで。』そうだ。わたしはおまへたちに言う。この時代はその責任を問われる。

(新改訳 2017)

(4) イエスは、旧約聖書のすべての部分を、歴史的出来事として認識された。

(5) 旧約聖書の権威は、イエス・キリストの権威と証言に依存している。

#### 4. キリストによる新約聖書の認定

(1) キリストは、聖霊の到来を約束された。

(2) 聖霊は、新約聖書の啓示と靈感において重要な役割を果たす（ヨハ 16：13～14）。

Joh16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

14 御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。

(3) キリストは、自分が啓示する真理について証しするように使徒たちに命じた。

(4) 使徒たちは、自らの著作が権威あるものであることを主張できた（1 コリ 2：13、ガラ 1：7～8）。

1Co2:13 この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。

Gal1:7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるのではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。  
8 しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。

(5) 使徒たち以外の作者（マルコ、ルカ、ユダ）の場合は、使徒たちとの関係が深い。

## 5. 新約聖書の正典は、397年のカルタゴ教会会議で、西方教会において承認された

## II. 解釈学の歴史

### 1. 誤った解釈学の源流は、エデンの園におけるサタンの欺きである

#### (1) 創世記 3 : 1 ~ 5

Gen3:1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。」

3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と仰せになりました。」

4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」

5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

- ①神のことばを疑った（創 3 : 1）。
- ②神のことばを不正確に伝えた（創 3 : 1）。
- ③神の動機を疑った（創 3 : 5）。
- ④啓示の目的を再定義した（創 3 : 5）。
- ⑤最初の啓示に矛盾することを言った（創 3 : 4）。

### 2. 旧約時代、神のことばを受け取った者たちは、それを字義通りに解釈した

- (1) ノアの例：神の命令を字義通りに解釈した（創 6 : 22、7 : 5）。
- (2) アブラムの例
  - ①行き先を知らずして出て行った（創 12 : 4a）。
  - ②息子が与えられるという約束を字義通りに受け取った（創 15 : 6）。
  - ③イサクを捧げよという命令を字義通りに受け取った（創 22 : 2）
- (3) アビメレクの例：夢で告げられたことを字義通りに解釈した（創 20 : 6）。



- (4) ヤコブの例：神の祝福のことばを字義通りに解釈した（創 28 章）
- (5) ヨセフの例
  - ①夢を、字義通りに成就する真理を示す絵画的メッセージと理解した。
- (6) モーセの例
  - ①燃える芝の中から聞こえた神の命令を字義通りに解釈した。
- (7) 預言書における字義通りの解釈
  - ①預言は、字義通りに成就している。
  - ②ダニエル書 2 章の「ネブカデネザルが夢で見た像」の預言は成就している。
  - ③ 332 の預言がキリストによって字義通りに成就した（Floyd Hamilton）。

### 3. 中間時代

- (1) ギリシア文化とギリシア哲学の影響が聖書解釈の分野に及んだ。
- (2) アレキサンドリアのユダヤ人たちがそれを採用した。
  - ①フィロン（前 20 ～紀元 50）がその代表である。
  - ②彼は、聖書の啓示とギリシア哲学を融合させるために比喩的解釈を採用した。

### 4. 教会時代

- (1) 殉教者ユスティノス（100 ～ 165）
  - ①『ユダヤ人トリュフォンとの対話』
  - ②紀元 2 世紀にすでに比喩的解釈が行われていた。
    - \*アマレクとの戦い（出 17 章）で、モーセは両手を上げて祈った。
    - \*アロンとフルが両手を支えた。これは、十字架の形を作っているのである。
- (2) オリゲネス（185 ～ 254）は、フィロンの手法を採用した。
  - ① 3 重の解釈
    - \*字義通り
    - \*道徳的（霊的）
    - \*比喩的

②彼は、千年期前再臨説を放棄し、キリストの再臨を比喩的に解釈した。

\*再臨とは、個人的な霊的体験、キリスト体験のことである。

(3) アウグスチヌス (354 ~ 430)

①彼は、二面的解釈を採用した。

\*預言書は比喩的に解釈する。

\*その他の書は、字義通りに解釈する。

②この手法は、それ以降の世代に受け入れられ易いものとなった。

③比喩的解釈の進展の概観

\*ギリシア哲学の比喩的手法 → アレキサンドリアのユダヤ人たち → キリスト教会が採用 → 宗教改革の時代まで主流となる。

(4) 教会教父たち (2 ~ 8 世紀、正統信仰の著述家たち)

①ヨハネ 5 : 39 を根拠に、キリスト論を解釈学の中心に置く。

②困難な聖句は、比喩的に解釈する。

(5) 宗教改革者たち

① 16 世紀の宗教改革者たちは、字義通りの解釈に戻った。

②しかし、預言箇所とイスラエルに関しては、比喩的解釈を維持した。

\*これは、結局のところ、アウグスチヌスの二面的解釈である。

(6) 理性万能時代

①理性を優先させた聖書観

②超自然を排除し、進化という概念を聖書に押しつける。

(7) カール・バルト (1886 ~ 1968)

①新正統主義

②聖書の無謬性、無誤性を否定した。

③聖書の中に真理が含まれている。

④人間がそれに応答する (それを体験する) ときに、啓示は啓示となる。

(8) ポストモダン (20 世紀後半 ~ 21 世紀)

①字義通りの解釈に反対する。

②普遍的権威や絶対的真理の存在を否定する。

③現実や価値は相対的なもので、理性ではなく、経験に基づいている。

④意味は相対的なもので、解釈者のサブカルチャーによって再構築される。

## まとめ

### 1. 教会の第一世代は、啓示の内容を字義通りに解釈した

- (1) 教会史の初期の時代、千年期前再臨説はキリアズムと呼ばれた。
  - ①千年期前再臨説という用語さえない時代である。
  - ②当時は、キリアズムと言えば、千年期前再臨説のことであった。
- (2) 紀元 1 ～ 3 世紀においては、キリアズムが正統的な信者の中で最も支持を集めた説であった。
  - ①このことは、多くの教会教父たちの証言するところである。
  - ②初期の信者たちは、預言を字義通りに解釈した結果、キリアズム信仰を持った。
  - ③地上に千年王国が成就するという希望は、ヘブル的希望である。

### 2. それ以降、字義通りの解釈を施す程度はさまざまに変化してきた

- (1) それは、「解釈学の歴史」の項で見た。
  - ①宗教改革者たちも、アウグスチヌスの呪縛から解放されなかった。
- (2) 預言書にも字義通りの解釈を施すようになるのは、15 ～ 16 世紀になってから。
  - ① John Bale (1495 ～ 1563、英国人)
  - ② ジョゼフ・ミード (Joseph Mede、1586 ～ 1638 年、聖公会の英国人神学者)
    - \* 「神の国」の字義通りの解釈に取り組んだ先駆的神学者。
    - \* 彼は、聖書は文字通りの神の国の約束を与えていると結論づけた。
    - \* 初期のキリアズム (千年期前再臨説) を採用し、彼に同意する多くの学者が出た。
- (3) 19 世紀に入ると、千年期前再臨説が復興し始めた。
  - ① 神の靈感と聖書の権威に対する信仰
  - ② 健全な聖書研究の広がり
  - ③ 聖書本文の字義通りの解釈
  - ④ 復興した千年期前再臨説は、19 世紀と 20 世紀の根本主義運動において主要な役割を果たすようになった。
- (4) 19 世紀の千年期前再臨説の復興は、英国で始まった。
  - ① プリマス・ブレザレン (The Plymouth Brethren、1831 年に組織化)
  - ② ジョン・ネルソン・ダービー (John Nelson Darby、1800 ～ 1882 年)

\* ディスペンセーションナリズムと千年期前再臨説は、多くの支持者を集めた。

(5) 英国で復興した千年期前再臨説は、19世紀の第3四半期に米国で広まった。

- ① D.L. ムーディ (D. L. Moody、1837 ~ 1899年)
- ② J.W. チャップマン (J. Wilbur Chapman、1859 ~ 1918年)
- ③ R.A. トーレー (Reuben A. Torrey、1856 ~ 1928年)
- ④ ビリー・サンデイ (Billy Sunday、1862 ~ 1935年)
- ⑤ ロバート・スピーア (Robert Speer、1867 ~ 1947年)
- ⑥ A.T. ピアソン (A. T. Pierson、837 ~ 1911年)
- ⑦ A.B. シンプソン (A. B. Simpson、1843 ~ 1919年)
- ⑧ ジェイムズ・ブルックス (James H. Brookes、1830 ~ 1897年)
- ⑨ A.J. ゴードン (A. J. Gordon、1836 ~ 1895年)
- ⑩ C.I. スコフィールド (C. I. Scofield、1843 ~ 1921年)

(6) 聖書学校運動 (1800年代後半に始まった)

(7) 1800年代後半の聖書カンフェランス運動と預言カンフェランス運動

(8) フェイス・ミッション運動

(9) ユダヤ人伝道を行う宣教団体

(10) 神学校

- ① ダラス神学校 (1924年)
- ② Western Conservative Baptist Seminary (1927年)
- ③ Grace Theological Seminary (1937年)
- ④ タルボット神学校 (1952年)

MEMO

## Part III. 字義通りの解釈がもたらす祝福

### はじめに

- (1) 一貫した解釈学の必要性
  - ①神はご自身を啓示された。
  - ②一貫した字義通りの解釈でなければ、啓示の内容を理解することはできない。
  - ③主観的解釈は、解釈者を聖書の上に置くことになる。
  - ④それは、創造主の否定につながり、被造物を神とすることになる。
  
- (2) あらゆる種類のコミュニケーションには、等しく適用される一般原則がある。
  - ①最も自然な意味に取る解釈法である。
  - ②文脈を重視する解釈法である。
  - ③比喩は比喩として解釈する。
  - ④歴史的、文法的解釈と呼ばれる。
  
- (3) 聖書解釈のゴールは、神のご性質を知ることである。
  - ①それを助けるのが、聖霊の役割である。
  - ②信仰につながらない神の認識（ロマ 1：21）から、信仰につながる神の認識へ。
  - ③これこそが、永遠のいのちである（ヨハ 17：3）。

Joh17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

- ④正しい解釈学は、永遠のいのちに至る跳躍板になる。
- ⑤ディスペンセーションナリストは、一貫して字義通りの解釈を行う。
- ⑥霊的解釈や比喩的解釈は、客観性を破壊し、最終的には聖書の権威を破壊する。  
\*この場合は、解釈者が最終的な権威になってしまう。

- (4) 字義通りの解釈は、信仰を本来の姿に回復し、多くの祝福をもたらす。

## I. 字義通りの解釈は、聖書の権威への服従をもたらす

### 1. 聖書解釈の基本

- (1) 意味の汲み取り (exegetical) であって、読み込み (eisegetical) ではない。
- (2) 基本的には、帰納法 (inductive) であって、<sup>えんえき</sup>演繹法 (deductive) ではない。
  - ① 帰納法は、テキストの意味を発見し、そこから神学を構築する。
  - ② 演繹法は、テキストの意味を決定するために、神学から始める。
    - \* つまり、神学的前提を置いてから、意味を見つけるということである。

### 2. 解釈者は、一貫して聖書の意味を汲み取ることにより、聖書の権威に服する

- (1) 意味の読み込みや押しつけは、解釈者が聖書よりも優位に立つことを意味する。

## II. 字義通りの解釈は、漸進的啓示 (cumulative revelation) の重要性を認識させる

### 1. 漸進的啓示は、ディスペンセーションalistとそうでない者の分岐点となる

- (1) 漸進的啓示とは、神は一時に啓示のすべてを与えたわけではなく、時間の進展に沿って徐々に与えたということである。
  - ① 啓示は、徐々に積み重なっていく。
- (2) 解釈する際には、その時点でどこまで啓示が与えられていたかを考慮に入れる。

### 2. ディスペンセーションalistの解釈法

- (1) 旧約聖書は、新約聖書に優先する。
- (2) 旧約聖書は、それ自体で解釈されるべきである。
- (3) 新約聖書の光に照らして、旧約聖書を再解釈してはならない。

### 3. 非ディスペンセーションalistとプログレッシブ・ディスペンセーションalist

- (1) 彼らは、漸進的啓示を受け入れない。
- (2) 主な理由は、旧約聖書の優先性を認めたくないからである。
- (3) 彼らは、新約聖書を優先させて神学体系を確立しようとする。

### 4. 聖書神学は、各書を啓示が与えられた順番に研究する学問である

- (1) 啓示は、一度に与えられたわけではない。
- (2) 聖書は、神の啓示のプロセスを記した記録である。
- (3) キリストも、漸進的啓示を前提に聖書を解き明かされた (ルカ 24 : 27)。

Luk24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中



で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

(4) そして、キリストご自身が、漸進的啓示の頂点である（ヘブ 1：1～2）。

Heb1:1 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、

<sup>2</sup> この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

(5) ヨハネの福音書の前書きは、漸進的啓示に沿って書かれている。

- ①「初めに、ことばがあった」（1 節）
- ②モーセへの言及（17 節）
- ③預言者への言及（19～25 節）

### III. 字義通りの解釈は、神の栄光が聖書の中心テーマであることを認識させる

#### 1. 神は、ご自身の栄光のために世界を創造された

- (1) 創世記 1～2 章を字義通りに解釈すれば、6 日間の創造に行き着く（聖書の創造論）。
- (2) 創造物語を字義通りに解釈しないなら、それ以降の神の働きも否定されることになる。
- (3) 神の働きを否定するなら、それは神の栄光を否定したことになる（ヘブ 11:3）。

Heb11:3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。

#### 2. 人間にとって最も重要な使命は、神の栄光を称えることである

- (1) しかし、人間の使命や役割を強調しすぎてはならない。
  - ①それは、人間中心の神学を生み出すことになる。
  - ②他の被造物にも同じような役割が与えられている。

#### 3. 神の栄光を神学のゴールと認識する利点

- (1) キーワードは、「継続性」と「調和」である。
  - ①旧約聖書と新約聖書の継続性と調和
  - ②諸契約の継続性と調和
  - ③諸ディスペンセーションの継続性と調和
  - ④それ以外の神の計画の調和と一貫性
- (2) ライリーによるディスペンセーションナリズムの 3 本柱。
  - ①イスラエルと教会の区別
  - ②一貫した字義通りの解釈
  - ③神の栄光
    - \*彼は、「神の栄光」を 3 本柱の一つとしている。
- (3) 契約神学は、「人間の救い」を聖書の中心テーマにするが、それは間違っている。
  - ①それだけが、聖書が書かれた目的ではない。

- ② 「誰が神学の中心にいるのか。人なのか、神なのか」を問う必要がある。

## IV. 字義通りの解釈は、ディスペンセーションナリズムの生みの親である

### 1. ディスペンセーションナリズムの神学体系が先ずありき、ではない

- (1) ディスペンセーションナリズムだから字義通りの解釈を主張するわけではない。
- (2) 一貫した字義通りの解釈の結果、ディスペンセーションナリズムが誕生した。
- (3) どこまで字義通りの解釈を貫くのかによって、終末論が変わってくる。
  - ①千年期後再臨説
  - ②無千年王国説
  - ③千年期前再臨説

### 2. 契約神学 / 改革派神学

はじめに：契約神学には 3 つの特徴がある。

- ①行いの契約（わざの契約）（covenant of works）
- ②一つの神の民（one people of God）
- ③一貫性のない解釈学（an inconsistent hermeneutic）

#### (1) 行いの契約と恵みの契約という枠組み

- ①神はアダムと契約を結ばれた。
  - \*アダムはその契約に違反した。
- ②そこで神は、恵みの契約（covenant of grace）を立てた。
  - \*神は、信仰による永遠のいのちを提供された。
- ③しかし、この 2 つの契約は、聖書には出てこない（そういう呼称もない）。
- ④彼らは、字義通りの解釈は断続性をもたらすと考えた。
  - \*それを修正するために、「贖い」が中心テーマに据えられた。
- ⑤「一つの神の民」という概念を強調する。
  - \*イスラエルと教会の区別を否定する。
- ⑥現代の信者にもモーセの律法を適用する。
- ⑦特に預言の箇所に関して、比喩的解釈を施す。
- ⑧ハインリヒ・ブリンガー（Heinrich Bullinger）（1504 ~ 1575）
  - \*スイスの宗教改革者で、フルドリヒ・ツヴィングリの後継者。
  - \*「契約神学の父」と呼ばれる。
- ⑨ヨハネス・コッケイアス（Johannes Cocceius）（1603 ~ 1663）
  - \*オランダ改革派の神学者

- \*彼が、行いの契約、贖いの契約、恵みの契約というシステムを確立した。
- \*贖いの契約とは、父なる神と子なる神の間の契約である。
- \*この体系では、「贖いの計画」が聖書を統一するテーマとなる。

(2) 一つの神の民

- ①新約の聖徒たちは、旧約の聖徒たちと同じ身分と同じ地位を与えられる。
- ②つまり、イスラエル人の聖徒と教会時代の聖徒は、ひとつの体に属している。

(3) 一貫性のない解釈学

\*字義通りの解釈が困難な箇所は、比喩的に解釈する。特に預言の箇所。

①契約神学の千年期後再臨説

\*教会時代が黄金期を迎え、その後からキリストの再臨がある。

②契約神学の無千年王国説

\*キリストによる文字通りの地上における統治を否定する。

\*通常は、キリストの文字通りの地上再臨は信じる。

③契約神学の千年期前再臨説

\*キリストは文字通り永遠の御国を打ち立てるために地上に戻って来る。

\*しかし、この御国は千年王国ではない。

\*契約神学の無千年王国説と似ている（用語の違いだけである）。

### 3. ウルトラ（ハイパー）・ディスペンセーションリズム

(1) E. W. Bullinger's Companion Bible

(2) 6つの特徴がある。

- ①福音書には、教会に対するメッセージは含まれていない。
- ②使徒の働きは、律法のディスペンセーションと奥義のディスペンセーションの移行期の記録であり、パウロ書簡が扱う教会とは別の教会を扱っている。
- ③パウロは、みからだの奥義性についての啓示を、ローマでの獄中生活までは受け取っていなかった。彼の初期の書簡は、移行期の教会（使徒の働きと同じ教会）を扱っている。
- ④黙示録は将来の出来事を扱っている。7つの教会は、大患難時代における7つのユダヤ人の教会である。
- ⑤キリストのからだ、小羊の花嫁（ユダヤ的）とは別のものである。
- ⑥洗礼と聖餐式は、パウロの投獄前に書かれたので、今の教会には適用されない。

#### 4. プログレッシブ・ディスペンセーションナリズム (PD)

- (1) Saucy, Blaising, Bock など、1993 年頃から。
- (2) 彼らは、ディスペンセーションナリズムと契約神学の仲裁的な位置を志向する。
  - ①実際は、PD は契約神学により近い。
  - ②ライリーは、PD は契約神学の千年期前再臨説に近いと分析している。
- (3) 7つの信条
  - ①神の国（神の支配）が、旧約聖書と新約聖書を統合する要素である。
  - ②聖書の歴史の中には、4つのディスペンセーションが見られる。
    - \* 族長時代、モーセの律法の時代、教会時代、御国の時代
    - \* 以下の方法で上記の結論に至る。
      - ・新約聖書のディスペンセーションの枠組みから始める。
      - ・基本的な枠組みを出来る限り単純なものにする。
      - ・従来のディスペンセーションナリズムとの差を出すために、ディスペンセーションへの言及をより柔軟に解釈し、より単純な枠組みを作る。
  - ③キリストは現在ダビデの王座に着いている。
    - \* ダビデ契約は、イスラエルと教会の両方に関連している。
    - \* 父なる神の右の座＝ダビデの王座
  - ④新しい契約はすでに効力を発揮している。まだ完全に成実はしていない。
  - ⑤イスラエルと教会の区別は、古典的ディスペンセーションにおいて強調されすぎた。
  - ⑥補足的解釈学を提唱する。
    - \* 字義通りの解釈（歴史的・文法的解釈）を否定する訳ではない。
    - \* 新約聖書は、補足的解釈を旧約聖書に適用していると主張する。
    - \* 補足とは、約束の適用範囲の拡大である。
  - ⑦「すでに、未だ」（an already not yet approach）という手法
    - \* 諸契約は、漸進的に成就しつつある（PDの語源）。
    - \* 契約の成就を「今」と「将来」に見る。

#### 5. 通常のディスペンセーションナリズムの時代区分

- (1) 3つのディスペンセーション（AC Gaebelin）
  - ① The Age of Preparation（準備の時代）  
（創 3:15、イスラエルの召命まで含む）
  - ② The Age of Participation（参画の時代）

- (使 2 章から携拳まで、1 テサ 4 : 17 ~ 18)  
③ The Age of Consummation (成就の時代)  
(キリストの再臨、千年王国、永遠の秩序への移行)

(2) 7つのディスペンセーション (C. I. Scofield)

- ①無垢の時代 (創 1 : 3 ~ 3 : 6)
- ②良心の時代 (創 3 : 7 ~ 8 : 14)
- ③人間による統治の時代 (創 8 : 15 ~ 11 : 9)
- ④約束の時代 (創 11 : 10 ~ 出 18 : 27)
- ⑤律法の時代 (出 19 : 1 ~ ヨハ 14 : 30)
- ⑥恵みの時代 (使 2 : 1 ~ 黙 19 : 21)
- ⑦千年王国 (黙 20 : 1 ~ 5)

\* 古典的ディスペンセーションナリズムは、教会を挿入句として理解した。

\* 修正ディスペンセーションは、教会を神の計画の中の重要な要素と理解する。

(3) 12のディスペンセーション (Christopher Cone)

- ①計画 (Planning: Eternity Past)  
(ヨハ 17 : 24、エペ 1 : 4、1 ペテ 1 : 20)
- ②前奏 (Prelude: Innocence of Man)  
(創 1 : 1 ~ 3 : 5)
- ③窮状 (Plight: Failure of Man)  
(創 3 : 6 ~ 6 : 7)
- ④守りと供給 (Preservation and Provision: Common Grace and Human Government)  
(創 6 : 8 ~ 11 : 9)
- ⑤約束の宣言 (Promises Pronounced)  
(創 11 : 10 ~ 出 18 : 27)
- ⑥前提条件の描写 (Prerequisite Portrayed: The Broken Covenant: The Tutor)  
(出 19 : 1 ~ マラ 4 : 6、ガラ 3 : 24 ~ 25)
- ⑦約束の提示 (Promises Proffered: The Kingdom Offered)  
(マタ 1 : 1 ~ 12 : 45)
- ⑧延期と和解 (Postponement and Propitiation: The Kingdom Postponed and New Covenant Ratified)  
(マタ 12 : 46 ~ 使 1 : 26)
- ⑨参画 (Participation: The Church Age)  
(使 2 : 1 ~ 黙 3 : 22)
- ⑩清め (Purification: The Tribulation, Jacob's Trouble)  
(黙 4 : 1 ~ 19 : 10)
- ⑪約束の成就 (Promise Performed: The Kingdom Initiated)

(黙 19 : 11 ~ 20 : 6)

⑫後書き (Postscript: Eternity Future)

(黙 20 : 7 ~ 22 : 21)



## V. 字義通りの解釈は、イスラエルと教会の明確な区別を要求する

\*一貫した字義通りの解釈かどうかを判断する基準は、この区別である。

### 1. 置換神学

- (1) 教会は、「不信仰のイスラエル」に取って代わった「真のイスラエル」である。
  - ①旧約聖書の中でイスラエルに与えられた約束は、教会が受け継いだ。
  
- (2) スコフィールドは、置換神学が教会に最大の悪影響を与えたと主張している。
  - ①教会に与えられた使命は、限定的なものである。
  - ②しかし教会は、世界を変えることが自らの使命だと考えるようになった。
  - ③教会の使命は、この世から分離して主に従うことである。
  
- (3) 置換神学は、以下の悲劇をもたらす要因のひとつとなった。
  - ①ユダヤ人迫害
  - ②十字軍
  - ③異端審問
  - ④ホロコースト

### 2. 置換神学は、比喩的解釈によってもたらされた

- (1) イスラエルへの語りかけが、教会への語りかけに変化する。
  - ①これは、ヘブル的世界観を放棄し、ギリシア的枠組みを採用することである。
  - ②その結果、イスラエルが軽蔑され、神学的議論の対象から外される。

### 3. 旧約聖書からの考察

- (1) 歴史的記述における字義通りの解釈 (Part II 「解釈学の歴史」: 13 ページを参照)

#### 4. 字義通りの解釈は、イスラエルと教会の区別を保持する

- (1) 神は、イスラエルのために、教会とは異なった計画を持っておられる。
- (2) イスラエルと教会の6つの差異（フルクテンバウム）
  - ①教会は、ペンテコステの日に、聖霊のバプテスマによって誕生した。  
(使 1:5、2:1～4、11:15～16、1コリ 12:13、コロ 1:18)
  - ②キリストの生涯におけるある出来事が、教会誕生の前提となった。  
\*死 (マタ 16:18、21)、復活 (エペ 1:20～23)、昇天 (エペ 4:7～11)
  - ③教会は、4つの奥義と関係している (エペ 3:3～5、9、コロ 1:26～27)。  
\*ユダヤ人と異邦人が一つにされる (エペ 3:1～12)。  
\*キリストの内住 (コロ 1:24～27、2:10～19、3:4、11)  
\*教会は、キリストの花嫁である (エペ 5:22～32)。  
\*携挙 (1コリ 15:50～58)
  - ④教会は、「新しいひとりの人」である。  
\*イスラエルとも異邦人とも異なる (エペ 2:11～3:6)。
  - ⑤イスラエル、異邦人、教会は、別々の存在である (1コリ 10:32)。
  - ⑥「イスラエル」は、教会を指す言葉としては一度も用いられていない。

#### 5. 教会の使命

- (1) 礼拝、賛美、日々の生活を通して、神の栄光を表わす。
- (2) キリストの花嫁として、キリストの再臨を期待して待つ。
- (3) ユダヤ人に福音を伝える。
  - ①ねたみを起こさせる (ロマ 11:11)。

Rom11:11 では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。

- (4) 異邦人に福音を伝える。

MEMO



無断複製・転載を禁じます